

2013年度京都光華中学校、京都光華高等学校卒業式祝辞 2014年3月10日〈月〉

京都造形芸術大学学長 尾池和夫

第67回京都光華中学校、第66回京都光華高等学校の卒業式にあたって、卒業される皆さまに心からお祝いを申し上げ、また深い愛情と細やかな心遣いで卒業のこの日まで、お子様を育ててこられたご家族の皆さま、さらに熱心に学校の内外で指導してこられた教員の皆さまに、敬意を払いつつ、心からお喜び申し上げます。

今日この式典での喜びをかみしめると同時に、学校長の式辞、理事長の祝辞にもあったように、東北の一部の地域では、仮設の校舎で入学式を迎え、仮設の校舎で卒業式を迎えた中学校や高等学校の仲間がたくさんいることにも、思いをはせていただければと思います。

さきほど斉唱された光華女子学園の歌にあるように、比叡山から遙かに望むまなびやに通いながら、仏の教えに接し、真実心を備える女性に育っていくという基本理念のもと、皆さんは今日、卒業式を迎えられました。

仏の教えのもと、真実心を備えるということは、まさに私のいる大学の基本理念に通じるものがあります。

私は以前から、地球社会のあらゆるものが共存する世界を理想としてきました。また、人が暮らす社会では、文化の多様性をお互いに尊重して真の国際化を旨とするように考えてきました。

京都造形芸術大学の学長としても、そのような基本理念で、芸術立国の考え方を進めようとしています。芸術の力で世界の平和を実現する人たちが巣立っていくようにという思いです。

京都光華高等学校には、来年度から、総合進学ライラックコースの選択プログラムが開設されます。その中で「アート・デザインプログラム」の共同開発のために、昨年6月6日に京都造形芸術大学と皆さんの高等学校との間で協定が締結されました。今日の式典にご出席の中学校を卒業される方々の中には、この連携授業に参加することになる方もたくさんおられると思います。

皆さんが学んだ京都は、1300年の歴史を持つ、都の文化を育んできた都市です。そこには豊富な地下水を生かして、茶の湯が生まれ、和菓子が発達し、京料理が生まれ、皆さんにはまだご縁がないでしょうが、美味しいお酒が醸成されてきました。それらは世界の宝として、人類の財産になる文化です。

文化はローカルなものですが、それを世界に広めるのは、皆さんの、世界に向けてのこれからの活躍です。どうか、世界に類を見ないこの京都の文化を大切にしながら、世界で活躍する美しい女性として、体を大切にしつつ、さらなる研鑽に努めていただくようお願い、私のお祝いのごとと致します。

ご卒業、本当におめでとうございます。

ありがとうございました。